

8810 生徒が二度も入学試験の日を間違えたなら, ····

生徒が二度も入学試験の日を間違えたなら, 無意識に, 進学を拒ませるなにかがある, と教師はピンとこなければならない. 同じ学校を, 自分をいじめる子どもが受験していて, 一緒になりたくないという気持ちが, 試験日を間違えさせた, ということだってありうる. 明日は試験だぞ, と電話をかけてやるより, そういうふうに頭を働かせる方が大切なのだ. 考えてほっておくべきものはほっておく. そしてはじめて小人を大人にすることができるのである.

なだ いなだ『娘の学校同窓会』

[許容訳例]

If a student mistakes twice concerning the date of an entrance examination, the teacher should sense immediately that there is something that is making the student refuse to go on to the next stage of his education: it could possibly be that he has made the mistake because another student who bullied him is taking the same examination and he doesn't want to go to the same school as him. To think of him in this way is more important than to call him and say, "Don't forget to take the exam tomorrow." To think about it and leave things alone that should be left alone is the only way to help a child to grow up.

[翻訳例]

If a student twice mistakes the date of an entrance examination, his teacher should immediately suspect that there is something in his unconscious that is making him refuse to continue his education any further. It may well be for example that he has got the date of the exam wrong because he wants to avoid another student who bullies him and is taking the exam for the same school. Rather than calling to remind the student that the exam is the following day, it is more important for the teacher to use his imagination in this way. To think about things and to do nothing when to do seems best--that is the only way one can help the child grow into an adult.

■生徒が二度も入学試験の日を間違えたなら, 無意識に, 進学を拒ませるなにかがある, と教師はピンとこなければならない. (8810)

★「生徒」は, アメリカでは student でしょう. イギリスでは, この程度の年齢は pupil か child です.

★「二度も」は twice でしょう. 「も」は無視していいでしょう. こだわって as many as twice とか no less than twice とすると大げさすぎます.

★「入学試験の日」は the date [day] of an entrance examination です. an は the でも間違いではありませんが, 読者とは未了解ですから an の方がいいでしょう.

★ 「～を間違える」は mistake ~とか get ~ wrong を使えばいいでしょう。mistake は自動詞としても使えますから mistake concerning ~でもいいです。be mistaken concerning ~は駄目です。be mistaken は「間違える」というより「何か勘違いしている」という感じが強いのでここでは無理です。get ~ wrong は、たとえば、I'm sorry I got the time [your name] wrong. のように使います。

● [なら] (条件)

この「・・・[なら]」は、まれな事態と解釈して If a student were…と仮定法にしたくなりますが、If s student mistakes…と普通の条件節でいいと思います。

◆mistakes と has mistakenについて

「生徒が二度も入学試験の日を間違えたなら」は If a student twice mistakes the date of ~という事態表現でいいのですが、現在完了形を使って If a student has twice mistaken the date of ~としてもいいです。こうすると、教師が目の前で心配そうにその状況を見ているという感じがよく出てきます。現在完了は、元は「事態+感情」の主観表現の一種です。アメリカ英語ではあまり見られませんが、イギリス英語ではまだその感じで使われます。

★ 「無意識に」は、副詞としては subconsciously とか unconsciously ですが、副詞句なら in his subconscious [unconscious] (mind)です。

★ 「進学」は go on to a higher school を適当に変えればいいです、たとえば、go on to the next stage of his education とか。あるいは continue his education any further でもいいです。

★ 「～を拒ませる」は make him refuse to…でしょう。refuse to…の代わりに reject the idea of (continuing….) としてもいいでしょう。この the idea of …は、日本語にすると「(…する) 気 (持ち)」でしょう。

● 「連体修飾節+不定代名詞的体言」(進学を拒ませるなにか)

「進学を拒ませるなにか」は「連体修飾節(進学を拒ませる)+体言(なにか)」ですから、英語では「代名詞(something)+関係詞節(that is making him refuse to….)」です。日本語は「拒ませる」ですが、現に試験に遅れたりしている現在の状態を述べているのですから「拒ませている」(something that is making….)と考えるべきです。

★ 「ピンとくる」は immediately suspect that…とか sense immediately that…など。なお、suspect の代わりに doubt は使えません。suspect that…は「…ではないかと思う」に対して doubt that…は「…とは思わない」です。なお、辞書には have a hunch that…も出ていますが、これは「よくわからないけど何となくそんな気がする」という意味なので、ここでは弱いと思います。

★ 「…ならない」ですが、ここでは must ではなく should でしょう。sense とか suspect は意志的行為ではないからです。

■同じ学校を、自分をいじめる子どもが受験していて、一緒になりたくないという気持ちが、試験日を間違えさせた、ということだってあります。(8810)

★ 「同じ学校」は the same school (as him)です。

★「いじめる」は「子どもが子どもをいじめる」のですから bully です。「特に一人を選んで辛く当たる」という場合に使う pick on も使えます。be hard on somebody は「人を非常に厳しい〔きつい〕目で見る」ことで、たとえば、Don't be so hard on him.（そんなに厳しく〔ひどく〕非難しなくともいいじゃないか）という意味で使います。ここでは使えません。

●「連体修飾節+不定代名詞的体言」(自分をいじめる子ども)

「自分をいじめる子ども」は「連体修飾節(自分をいじめる)+体言(子ども)」ですか
ら、英語では「名詞(another child [student])+関係詞節(who bullies him)」です。

★「(同じ学校を)受験している」は is taking the exam (for the same school)です。辞書には「受験する」に sit for the examination が出ています。使えますが、ちょっと堅い感じがしますし、それに for the same school との関連からも take を使った方がいいです。

★「一緒にになりたくない」という気持ち」は、日本文に正確に合わせると a feeling that he wants to avoid another child [student]…です。なお、a feeling that he doesn't want to go to the same school (as him) も可能です。「一緒に」に together が思いつきますが、ここは主語が二人以上でないと使えません。together with him なら使うことが出来ます。

★「(彼に)試験日を間違えさせた」は前の「二度も入学試験の日を間違えた」を引き継いで he has made [made] the mistake とするのがいいでしょう。

★「～ということだってありうる」は、表面には出ていませんが、if one thought about it [analyzed it] carefully, one might come to this conclusion ということですから、it could possibly be that…となります。あるいは「だって」というニュアンスを強く出すのなら「もつともだ・無理もない」という意味で it may well be for instance [example] that…としてもいいでしょう。

●原文の分析

「同じ学校を、自分をいじめる子どもが受験していて、一緒にになりたくない」という気持ちが、試験日を間違えさせた」は「自分をいじめ、同じ学校を受験している子と一緒にになりたくない」という気持ち〔思い〕が…として He has got the date of exam wrong because of a feeling that he wants to avoid another child who bullies him and is taking the exam for the same school. となります。なお、of a feeling that を省いて because he…と簡単にしてもいいと思います。

■明日は試験だぞ、と電話をかけてやるより、そういうふうに頭を働かせる方が大切なのだ。
(8810)

★「明日は試験だぞ」は、日本文特有の直接話法を地の文に入れる形になっていますが、英語では間接話法にして地の文のするのが普通です、ですから、直接話法の"The exam is tomorrow."とか"Tomorrow is the exam."を間接話法にして…that the exam was the next [following] day とか…that the following day was the exam です。ただ、英語の習慣から外れますが、… "Don't forget tomorrow is (the day of) the exam(ination)."でも間違いとは言えません。

★ 「電話をかけてやる」は単に「電話をかけて言う (call him and say that…)」でもいいですが、「かけてやる」を生かすなら call [telephone] to remind the student [him] that…でしょう。

★ 「そういうふうに」は、すぐ上で述べたことを受けるので、英語では in this way です。

★ 「頭を働かせる」は、難しいです。辞書には think of [about] ~と出ていますが、これは「～について (こういう in this way) 考え方をする」で、まったく間違いとは言えませんが、ちょっと無理のような気がします。ここでは use his imagination (in this way) がいいです。

『英和活用大辞典』には Come on! Use tour imagination and write something interesting. (しっかりしろ！ 想像力を働かせて何かおもしろいものを書けよ。) という例があります。

★ 「大切なのだ」は is important です。

● 「……より……の方が大切なのだ」

ここは「電話をかける」のも「頭を働かせる」のも teacher ですから、日本語の情報順にすれば Rather than calling …, it is more important for the teacher to use his imagination…となります。順序を逆にして For the teacher to use his imagination… is more important than telephoning [calling] …としてもいいでしょう。

■ 考えてほっておくべきものはほっておく。(8810)

★ 「考え [て]」は「状況・事態を考え [て]」ということでしょう。think about it とか think about things とかでしょう。

● [て] (動作順次)

この [て] は「考えて、そしてほっておく」ですが「動作順次」で and を使います。

★ 「ほっておく」は leave ~ alone でしょう。leave ~ by oneself は「～を一人にしてあげる」とか「そっとしておく」ですから、ここでは使えません。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(ほっておくべきもの)

「ほっておくべきもの」は「連体修飾節 (ほっておくべき) + 体言 (もの)」ですから、英語では「名詞(things) + 関係詞節(that should be left alone)」です。

● 表現の奥を訳す (考えてほっておくべきものはほっておく)

そのまま訳すと To think about it and leave things alone that should be left alone ですが、この言い方は冷たいと思います。子どもに対する優しい眼差しを加味するなら To think about things and to do nothing when to do nothing seems best (考えて手を出さない方がいいと思えるときには手をださない) と訳すことも出来ます。つまり「ほっておくべきもの」という「連体修飾節 + 体言」は場合によっては「名詞 + 関係詞節」で処理しない方がいいこともあります。

■ そしてはじめて小人を大人にすることができるのである。(8810)

★ 「そして……」ですが、この「そして」は上の文との論理の飛躍を隠すために加えたれたと考えることが出来ます。無視して上の文とつなげた方がいいと思われます。

★ 「(……して)はじめて……することができる」は… is the only way to…とか… is the

only way that…でしょう。

★ 「小人を大人にすることができる」は the only way one can help [to help/ of helping] children [a/the child] to grow up [grow into an adult]か、あるいは to grow…の代わりに to make an adult out of a child も可能です。